【著作紹介】社会保障法における連帯概念　―フランスと日本の比較分析

著者：伊奈川　秀和（社会学部社会福祉学科　教授）

出版社：信山社出版
出版年：2015 年 9 月発行
価格：7,800 円＋税
ISBN：9784797267440

所蔵状況を確認する
http://triton.lib.toyo.ac.jp/detail?bbid=U102120303

内容：
変化の激しい社会の今日において、いかに「連帯」概念は、規範的意義をもち、有効に機能するのか。社会保障の安定化のために。

信山社出版の紹介ページ
https://www.shinzansha.co.jp/book/b209815.html

教員メッセージ

　本書は、これまでの研究成果の一端をまとめた研究書です。本の基本コンセプトは、題名のとおり連帯です。

　この言葉との出会いは、私が 1982 年に厚生省（現厚生労働省）に入省したときに始まります。当時、社会保障、特に社会保険は社会連帯だということを省内でよく耳にしました。今でも、政府の文書には、よく社会連帯という言葉が出てくるはずです。この社会保険といえば、ドイツかフランスであり、省内でも両国の制度は常にフォローしていた時代です。とはいえ、ビスマルクの社会保険以来、日本への影響が大きかったのはドイツですので、社会連帯というのは、ドイツ法の概念だと思っていました。

　ところが、入省 2 年目にフランスに勉強に行くことになり、そこで出会ったのが連帯という言葉でした。そこで調べてみると、実は連帯の母国はドイツではなく、むしろフランスだということが分かりました。また、1984 年当時、フランスでは社会的排除に当たる exclusion sociale という言葉がよく登場するのですが、何を意味するのかピントきませんでした。更に言えば、nouveaux pauvres（新しい貧困者）という耳にし、訊くと成金（nouveaux riches）の反対語だというのですが、当時の日本人には理解が難しかった概念でした。

それ以来、この連帯と社会的排除の二つの概念にこだわり、実務の傍ら細々と研究をしてきた成果がこの本に反映しています。必ずしも読みやすい本ではありませんが、日本の社会保障、特に社会保険を理解するには、ドイツ法とフランス法の理解が必要不可です。また、歴史の偶然かもしれませんが、フランスと日本の社会保険制度には、結構共通点があります。

社会保障に対する理解を深めたい方は、手にとって目を通していただければ幸いです。

目次

◆第 1 章　はじめに
1　社会保障が直面する状況
2　問題の所在
3　検討の進め方・手法

◆第 2 章　基本概念としての連帯の意義
1　社会保障の原点としての連帯
2　現代の社会保障の先端に位置する連帯
3　連帯概念の整理
（1）連帯の語義
（2）連帯の社会性と集団性
（3）連帯の類型
（4）友愛との関係
4　小活

◆第 3 章　連帯概念の歴史的な生成発展
1　フランスにおける連帯概念
（1）政治的・哲学的概念
（2）法的概念への昇華
（3）実定法上の概念としての連帯の確立
2　連帯概念の我が国への影響
（1）戦前の影響
（2）戦後における連帯概念の発展
（3）裁判規範としての連帯
3　小活

◆第 4 章　社会保障法の基礎としての連帯
1　分析の視座・アプローチ
（1）制度体系に関する本書の立場
（2）本書が依拠する連帯原理の類型
2　フランスに関する分析
（1）社会保険法の場合

（2）社会扶助法の場合
（3）日本の分析に向けての予備的整理
3　日本に関する分析
（1）社会保険法の場合
（2）社会扶助法の場合
（3）社会扶助の権利性
4　小活
（1）連帯類型と社会保障各制度との関係
（2）社会保障の権利義務関係における連帯の機能

◆第 5 章　社会保障の権利義務に関する論点の検討
1　社会保障の基礎としての連帯
（1）我が国における連帯と生存権保障のこれまでの理解
（2）フランス法を踏まえた連帯と生存権との関係の整理
（3）社会保障の水準設定における連帯の意義
2　社会扶助の権利性
（1）社会扶助の権利義務関係
（2）個人給付化による権利性の強化
（3）社会扶助のパラダイム転換
3　社会保険の権利性
（1）社会保険の権利義務関係
（2）保険料拠出を巡る連帯の射程と限界
（3）財政調整を巡る連帯の射程と限界
（4）給付を巡る連帯の射程と限界
4　連帯による平等権保障
（1）連帯と平等権の関係
（2）連帯と平等の規範的意義
5　小活

◆第 6 章　社会保障の主体に関する論点の検討
1　連帯の根底にある集団性
2　連帯による多様な当事者関係の形成
（1）社会保険の場合
（2）社会扶助の場合
3　小活

◆第 7 章　日仏の比較分析の総括と我が国への示唆
1　比較分析の総括
（1）総括の進め方
（2）集団性から見た連帯の作用

（3）まとめ
2　我が国への示唆等
（1）持続可能な制度構築に向けた重層的な支え合い
（2）多様な主体の参画と協働
（3）連帯による権利性の強化
（4）基本的な方向としての国民連帯の強化
（5）まとめ
3　おわりに

［著者］　伊奈川　秀和（イナガワ　ヒデカズ）

1959 年　長野県生まれ
1982 年　東京外国語大学外国語学部フランス語学科卒業
1982 年　厚生省入省
1998 年　九州大学法学部助教授
2001 年　年金資金運用基金福祉部長
2003 年　内閣府参事官
2005 年　内閣参事官
2007 年　厚生労働省社会･援護局保護課長
2008 年　厚生労働省年金局総務課長
2009 年　厚生労働省参事官（社会保障担当）
2011 年　内閣府大臣官房少子化･青少年対策審議官
2013 年　厚生労働省中国四国厚生局長
2014 年　全国健康保険協会理事
2016 年　東洋大学社会学部社会福祉学科教授 ／ 博士（法学）（九州大学）

関連リンク

東洋大学研究者情報データベース（伊奈川秀和教授）
http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.edc2ffb6341b37aeaa8d48268c1903c3.html

教員が語る大学院の魅力（社会福祉学専攻　伊奈川秀和教授）
https://www.toyo.ac.jp/academics/gs/gswf/mswf/p-message/103062

社会福祉の需給調整における規整手法の考察（東洋大学学術情報リポジトリ）
http://id.nii.ac.jp/1060/00009639/

社会保障とワークライフバランスの交錯：社会保障法政策の観点から（東洋大学学術情報リポジトリ）
http://id.nii.ac.jp/1060/00008905/

フランスの福祉サービス利用者の権利保障（東洋大学学術情報リポジトリ）
http://id.nii.ac.jp/1060/00008545/